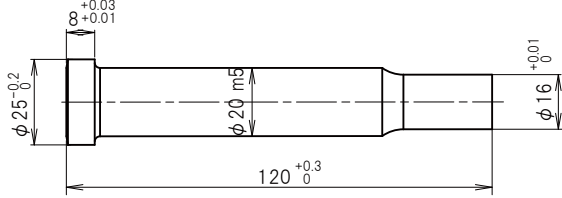


## 眠っているパンチを再研磨してコスト削減+エコ！

未使用のパンチが棚に保管されていませんか？ その中に、発注ミスや設計変更、不必要となった保安部品などデッドストックになっているパンチを時々見かけます。それを再研磨してコストダウンができるというお話です。

厚板打ち抜き用パンチ (カタログP.75~76) 『AHPLA20-120-P16.00』が棚にある場合



ここで、AHPLA20-120-P15.9 (定価8,550円) が、今設計中の金型に必要となった時・・・

### 新品購入の場合

- ・ 定価8,850円の購入費発生
- ・ φP16.0のパンチ在庫 8,850円はそのまま残る

### 再研磨の場合

$$\begin{array}{ccccccc}
 \text{送付費} & + & \text{再研磨費用} & + & \text{送料} & + & \text{代引手数料} & = & 2,800\text{円} \\
 \text{(お客様→タカノ)} & & \text{(研磨代による)} & & \text{(タカノ→お客様)} & & & & \\
 1,000\text{円} \times 1 & & 500\text{円} \times 1 & & 1,000\text{円} \times 1 & & 300\text{円} \times 2 & & 
 \end{array}$$

- ・ 購入代金 (8,850円 - 2,800円 =) **6,050円** のコスト削減
- ・ 8,850円の在庫削減
- ・ 環境にいい！

## 眠っているパンチをリユース

このように、再研磨できるパンチのサイズに制限がありますが、発注の新しい選択手段として部品費のコストダウンや在庫削減が可能です。

ドリルやエンドミルなどの切削工具を再研磨して使用している会社はたくさんあると思います。しかし同じ《刃物》であるパンチやボタンダイの再研磨を上手に利用している会社は少ないです。

状態や寸法によって価格が変わったり、再研磨ができないものもありますが、価格が比較的高いパンチやダイであれば、検討する価値はあると思います。しかも、限りある地球上の資源を再利用することで、環境対策への貢献にも繋がります。